

伊集院保健所感染症情報

2025年第14週（令和7年3月31日～令和7年4月6日）

【お問い合わせ先】 〒899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/index.html>

● 定点把握感染症

定点医療機関【インフルエンザ5，小児科3，基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報 基準値	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息		第11週	第12週	第13週	第14週	先週からの増減	第13週	前週からの増減
インフルエンザ	30	10	10	0.40	2.00	1.40	1.80	↗	0.98	↗
COVID-19	—	—	—	2.20	2.60	2.80	0.80	↘	1.40	↘
咽頭結膜熱	3	1	—	0.33	1.00	0.33	0.33	→	0.40	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—	4.00	3.33	1.67	3.67	↗	2.24	↗
感染性胃腸炎	20	12	—	10.67	6.00	7.33	3.33	↘	11.90	↘
水痘	2	1	1	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.20	↗
手足口病	5	2	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.04	↗
伝染性紅斑	2	1	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.36	↗
突発性発しん	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.18	↘
ヘルパンギーナ	6	2	—	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	→
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.04	↗
RSウイルス感染症	—	—	—	3.33	4.33	2.00	3.67	↗	2.36	↘

※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし， 注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし

● TOPIC 令和7年4月7日より 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが始まりました。

感染症法施行規則の改正により，令和7年4月7日から急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）が感染症法上の5類感染症に位置付けられ，定点サーベイランスの対象となりました。

急性呼吸器感染症（ARI）は，飛沫感染等により周囲の人に感染しやすいことが特徴です。新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ，国内で流行している感染症の発生動向を把握し，未知の呼吸器感染症を迅速に探知することにより，感染症の原因となる病原体を確認し，感染情報を発信したり，感染症対策に役立てたりします。

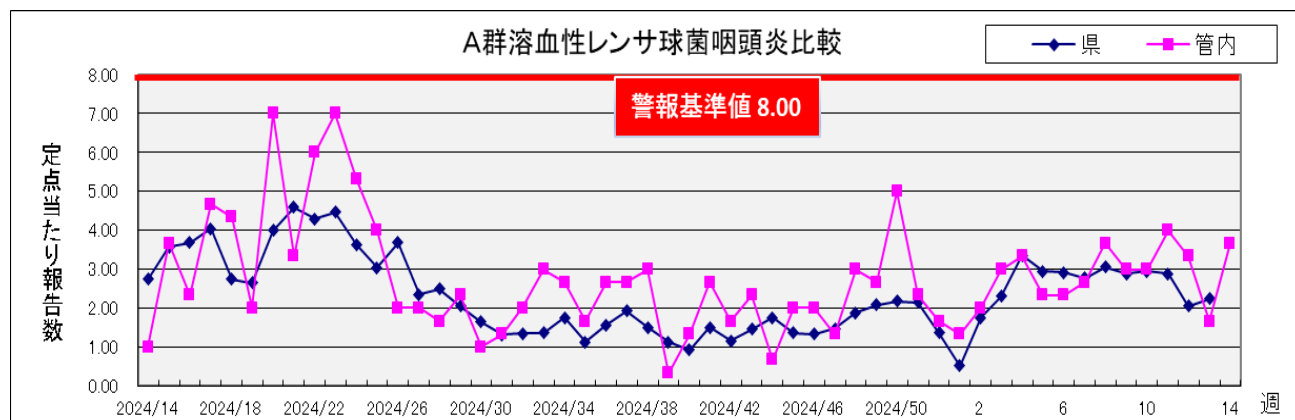
○急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスの考え方

「咳嗽，咽頭痛，呼吸困難，鼻汁，鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し，発症から10日以内の急性的な症状であり，かつ医師が感染症を疑う外来症例」を，ARI 定点医療機関からの報告の対象としています。

具体的には，インフルエンザ，新型コロナウイルス，RSウイルス，咽頭結膜熱，A群溶血性レンサ球菌咽頭炎，ヘルパンギーナ，新たに五類感染症に位置づける「急性呼吸器感染症」などが含まれます。

● 注意すべき感染症

・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



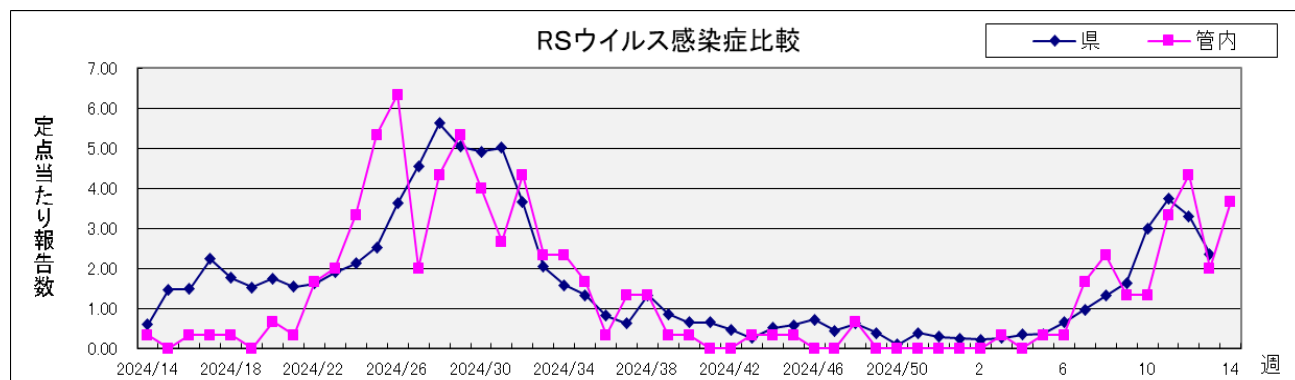
第 14 週の伊集院保健所管内における A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、前週の 5 人（定点当たり 1.67）から 6 人多い 11 人（定点当たり 3.67）でした。年齢別では、5 歳・7 歳・9 歳・10～14 歳（各 2 人）、3 歳・4 歳・6 歳（各 1 名）の順に多い報告でした。

感染すると、2～5 日の潜伏期間を経て、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛で発症し、舌が莓のように赤くザラザラとした状態になることもあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」が主な感染経路です。

患者と濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。

・ RSウイルス感染症



第 14 週の伊集院保健所管内における RS ウイルス感染症の報告数は、前週の 6 人（定点当たり 2.00）から 5 人多い 11 人（定点当たり 3.67）でした。年齢別では、6 ヶ月～11 ヶ月（6 人）、1 歳（2 人）、0～5 ヶ月・2 歳・3 歳（各 1 人）の順に多い報告でした。

RSウイルス感染症は、4～6 日ほどの潜伏期の後に、発熱、鼻汁など、かぜに似た症状が現れます。

新生児や生後 6 か月以内の乳児や基礎疾患を有する小児等が感染すると重症化しやすい傾向があるので注意が必要です。

感染経路は、「飛沫感染」、「接触感染」です。感染者と直接、濃厚に接触した場合や、ウイルスの付着したおもちゃやコップ、ドアノブなどに触れたり、舐めたりすることにより感染します。予防には、咳エチケットや子供たちが日常に触れるおもちゃなどのこまめな消毒、流水・石けんによる手洗いやアルコール消毒による手指衛生を励行しましょう。

○学校における感染症による出席停止の状況 3/31～4/6（出典：学校等欠席者・感染症情報システム）

第 14 週の出席停止については、報告は有りませんでした。